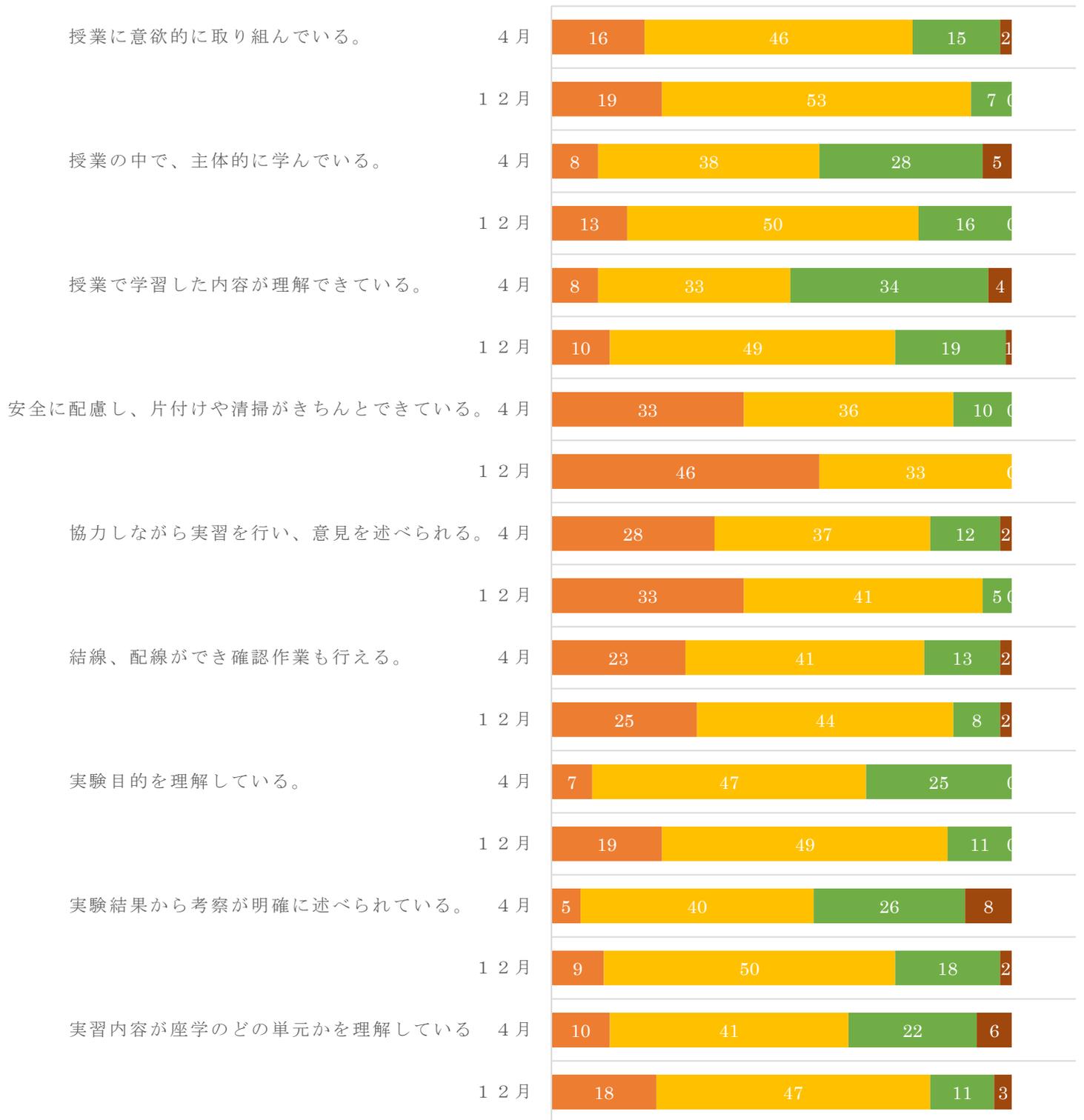


平成 29 年度教育課程研究指定校事業
研究のまとめ

生徒へのアンケート結果（4月・12月実施）

電気科 2, 3 年生 79 名

■ よくできている ■ できている ■ ややできている ■ できていない



今年度、実社会に通用する人材の育成を図りながら、研究を行ってきた。4月と12月に生徒へのアンケートを行い、結果を分析すると、すべての項目で自己評価が向上している。

産業界との連携・実習でのルーブリックを意識した活動・協働学習を通して知識の定着を目指した授業の実践によって生徒が意欲的に学校活動に取り組むようになった。また、教育課程以外の部分でも、資格取得に多くの生徒が挑戦し、数多くの生徒が合格する等良い影響が出ている。

研究の成果と課題（○成果●課題）

- 身に付けさせたい力をより明確にするため、実習ではルーブリックを用いて自己評価も行った。生徒は、身に付ける力を意識しながら実習に取り組むようになった。
- 実習を通して安全に対する意識を高めるため、企業技術者による危険予知訓練（KYT）を実施した。各テーマにおける評価規準「安全に対する意識」のA評価の割合が80%となり、おおむね目標を達成した。
- 実習におけるパフォーマンス評価の総合評価Cの数が0であった。
評価－検証のサイクルの中で、より適切な評価規準を設定した上で、評価基準表を改善する必要がある。
- グループで課題を解決する協働学習を通して、情報の収集、分類、関連付けることにより、より深く理解することができた。また、他人の発言を聞くことにより、新たな知識を得ることにつながり、他人に説明することで、知識の定着が高まる等、良い影響があった。
- 目標に準拠して身に付ける力を明確にした評価規準にも照らした指導方法とするため、協働学習自体が目的にならないよう、授業の目標の示し方には工夫が必要である。
- 他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導の成果として、授業にはこれまで以上に意欲的に取り組み、主体的に学び、学習した内容が理解できている生徒が増えた。

今後の取組

- 実社会に通用する力を育成するために、産業界との連携を強化する。
- 思考力・判断力・表現力を育成するために、積極的に協働学習を取り入れるとともに指導方法には工夫・改善を図る。
- 実習において、主体的に対応できる能力と態度を育成するために、ルーブリックを用いた評価の検証を行い、さらに改善を図る。
- 研究成果の普及に努める。